媚び媚び爆乳ドスケベエルフ王女姉妹と...

【トラック1】状況説明しながらの、オチンポムラつかせまくり密着耳舐めノーハンド射精

セセリア　「はぁあああああ～～～っ。はぁあああああ～～～っ」

エミル　「はぁあああああ～～～っ。はぁあああああ～～～っ」

セセリア　「あら、お目覚めになられましたか、主様」

エミル　「主様の寝顔、とってもかわいかったですよ」

セセリア　「ふふっ、主様、とても驚かれていますね」

エミル　「目が覚めたらぁ、豪華な部屋のベッドにパンツ一枚で仰向けでぇ、左右から密着添い寝されてるんですから、当然ですよねぇ、ふふっ」

セセリア　「しかも添い寝してるのはぁ、顔だけで百回はオナニーできそうなぁ、息を呑むくらいの超絶美人」

エミル　「どっちも全身からメスフェロモン出まくりの、オチンポイラつかせまくりボディでぇ、スケスケ素材のスケベな娼婦下着を着てぇ、エロさを五割増しにしてる」

セセリア　「密着してる肌はぁ、ゆで卵みたいにすっべすべでぇ、ムッチムチ」

エミル　「髪はシャンプーのＣＭみたいにつっやつやの、さっらさら。おまけに、オチンポに響く甘ーいシャンプーの匂いを漂わせてる」

セセリア　「起きた瞬間、五感すべてを塗りつぶすような、ドスケベ世界のまっただ中。そんなの、混乱しない方が無理ですよねぇ。はぁあああ～～～っ」

エミル　「訳わからないのに、オチンポだけは、痛いくらいにビンビンになっちゃいますよねぇ。はぁあああ～～～っ」

セセリア　「ふふっ、主様、ビクビクなさって、本当におかわいい」

エミル　「ほんと、見てるだけで、子宮が疼いちゃう」

セセリア　「この状況、どういうことか、説明してもらいたいですよねぇ」

エミル　「でもまだダーメ。まずはもっとムラムラしてくださ～い」

セセリア　「というわけでぇ、お胸を触るか触らないかのフェザータッチでぇ、さわさわ、さわさわ」

エミル　「こっちのお胸もぉ、さわさわ、さわさわ」

セセリア　「いかがですかぁ？　無防備なお胸を、つやつやネイルのほっそりした指で、優しーく愛撫される気分は」

エミル　「くすぐったいのに気持ちよくて、我慢しても声が出ちゃいますよねぇ、ふふっ」

セセリア　「声、遠慮なさらずに出して頂いていいんですよぉ」

エミル　「ここには私たちしかいないからぁ、恥ずかしがらなくて大丈夫」

セセリア　「私たち、こうして主様にご奉仕させて頂く日を、ずっと心待ちにしていたのですよぉ」

エミル　「精液搾り取るために生まれたようなこの体を使ってぇ、男を喜ばせる技術、何年も前から磨いてきたんです」

セセリア　「ですからぁ、主様をお目にした瞬間から、オマンコずっと火照りっぱなし」

エミル　「エローいヒダ肉から愛液がじゅんって溢れて、甘酸っぱいオマンコ臭、部屋いっぱいに充満させちゃってる」

セセリア　「ああっ、早くオマンコして頂きたいですっ。オマンコ、オマンコ、オマンコ、オ、マ、ン、コ」

エミル　「オマンコ、オマンコ、オマンコ、オ、マ、ン、コ」

セセリア　「ふふっ、主様、嬉しそうな声お出しになって」

エミル　「お耳も真っ赤。かわいすぎて、見てるだけでゾクゾクしちゃう」

セセリア　「ほーら、ご覧くださ～い。私のこのぉ、長めの、し、た」

エミル　「はーい、こっちにもありまーす、れろれろれろ～ん」

セセリア　「このぉ、甘ーい匂いのする唾液まみれの舌、何に使うと思いますかぁ？」

エミル　「ふふっ、正解はぁ」

セセリア　「んれろっ、れろれろっ、れろれろれろれろっ。んれるっ、じゅるれるっ、れろじゅるっ、じゅるるっ。んろっ、れるれるっ、んろんろっ、じゅるじゅるじゅるじゅるじゅる～～～っ」

エミル　「んれろっ、れろれろっ、れろれろれろれろっ。んれるっ、じゅるれるっ、れろじゅるっ、じゅるるっ。んろっ、れるれるっ、んろんろっ、じゅるじゅるじゅるじゅるじゅる～～～っ。耳レイプ、でしたぁ、ふふっ」

セセリア　「ふふっ、すごい反応。ダブル耳舐め、たまらないみたいですねぇ」

エミル　「このまま耳舐めしながらぁ、状況を説明しちゃいますねぇ」

セセリア　「初めまして。私はレアール王国の第一王女、セセリアと申します」

エミル　「私は第二王女のエミルです」

セセリア　「ここはエルフだけが住む世界、エルフィンランド。主様の世界から見ると、いわゆる異世界です」

セセリア　「この度は、あるお願いをするため、主様を召喚致しました。と言うのはぁ、主様のオチンポで、国民全員、孕ませて頂きたいのです」

エミル　「主様のオチンポで、国民全員、孕ませてもらいたいんです」

セセリア　「ふふっ、わかりますかぁ、孕ませですよぉ、は、ら、ま、せ」

エミル　「子作り。種づけ。卵子レイプ。生交尾」

セセリア　「事の始まりは数万年前。魔力の源、世界樹に異変が起こり、エルフィンランドでは男が生まれなくなりました」

エミル　「エルフィンランドは、女だけの世界になったんです」

セセリア　「ほーら、想像なさってくださ～い。女だけの夢の世界を」

エミル　「しかもみんなエルフだからぁ、右を向いても左を向いても、見た目が若くてナイスバディの、むしゃぶりつきたくなるような美女ばーっかり」

セセリア　「おまけに全員男日照りですからぁ、頭の中は、スケベなことでいっぱい」

エミル　「ああ～ん、男とハメハメしたぁ～い。逞しいオチンポで腰が抜けるまでズボズボされてぇ、こゆーいザーメン、中出しされたいのぉ～ん」

セセリア　「ああっ、オチンポほしいっ。オマンコぐちょごちょに犯されて、熱い赤ちゃんミルクどぴゅどぴゅされた～～～い」

エミル　「つまりぃ、主様は、ドスケベ女だらけの世界に召喚されたってわけ」

セセリア　「数万人の淫乱メスエルフたちがぁ、主様をお待ちしていたんですよぉ」

エミル　「でぇ、女だけになったエルフは滅亡を防ぐため、一番近い種族である人間の世界から、性欲旺盛な童貞男性を召喚することにしました」

セセリア　「ですが、異世界からの召喚は莫大な魔力を消費するため、百年に一人が限界」

エミル　「でも、一人で国民全員とセックスしていては、あまりに非効率」

セセリア　「そこで生み出されたのがぁ、孕ませ効率を最大限に高める、『子種撒き』の魔法です」

エミル　「これを掛けられた男性が射精するとぉ、妊娠可能な全エルフの子宮にぃ、射精された精液のコピーが転移するんです」

セセリア　「つまりぃ、主様が射精なさるとぉ、国民全員に、な、か、だ、し、したことになるんです、ふふっ」

エミル　「数万を超える美女エルフの赤ちゃん部屋にぃ、主様の元気な遺伝子オタマジャクシ、ぴゅっぴゅ、したことになるんですよぉ、ふふっ」

セセリア　「ほーら、ご想像なさってくださ～い。年齢もタイプも様々なエルフの子宮にぃ、自分の孕ませ汁がぁ、無責任中出しされる、と、こ、ろ」

エミル　「人間換算でまだ十六歳のＪＫアイドルのピュアな子宮にぃ、どぴゅ、どぴゅどぴゅ～っ」

セセリア　「王国最強騎士の男勝りな子宮にぃ、びゅるっ、びゅるびゅる～っ」

エミル　「名門貴族のお嬢様の、高飛車な子宮にぃ、どっぴゅん、どぴゅどぴゅ～っ」

セセリア　「母性溢れる元人妻の、妊娠経験のある子宮にぃ、ぴゅっぴゅ、びゅるびゅるびゅる～っ」

エミル　「街を行き交う美女エルフたちの子宮はぁ、主様のザーメンでたっぷたぷ」

セセリア　「あらゆる年齢のぉ、あらゆるタイプのエルフはぁ、主様専用のザーメントイレで、孕ませ妻」

エミル　「半年もすればぁ、街にはお腹をぽっこり膨らませたエルフがい～っぱい」

セセリア　「街を歩くだけでぇ、オスの征服欲、満たされまくり。王国全体が、主様の孕ませハーレム」

セセリア　「ふふっ、主様のパンツ、我慢汁で大きな染みができていますね」

エミル　「キンタマ、暴れ出したいくらいムラムラしてるでしょ」

セセリア　「それ、寝ている間にお掛けした、子種撒きの影響なんですよ」

エミル　「子種撒きを掛けられると、精液製造能力が、十倍になるんです」

セセリア　「ちなみにエルフの唾はぁ、人間の男性に対して、ポーションと同じ効果を発揮します」

エミル　「だからどれだけ射精してもぉ、キスしてれば体力が枯れる心配はナシ」

セセリア　「つまりこれからはぁ、毎日ハメまくりのぉ、オマンコ生活が待ってるんです」

セセリア　「ふふっ、いかがですかぁ。状況、理解して頂けましたかぁ」

エミル　「って、今はそれどころじゃないですよね～。オチンポ、切なくてたまらないでしょ」

セセリア　「手でしてさしあげたいところですが、最初の射精は、刺激なしの射精と決まっているんです」

エミル　「私たち二人がぁ、人生が変わるノーハンド射精、させて、あ、げ、る。ほーら、乳首もくりくり～」

セセリア　「こちらの乳首もぉ、くりくり～。かりかりかり～」

エミル　「ほーら、主様ぁ、童貞ミルク、いつでも出しちゃっていいんですよぉ」

セセリア　「ムチムチ孕ませ頃ボディで密着サンドイッチされながらぁ、国民全員種づけ射精、なさっていいですからねぇ、ふふっ」

エミル　「ちなみにぃ、主様が今夜召喚されることは、国民に通達してるから」

セセリア　「国民全員がぁ、主様との妄想セックスオナニーしながら、中出しを今か今かと待ってるんですよぉ」

エミル　「童貞なのにぃ、数万人に無責任中出し。想像するだけで、オスの孕ませ欲、滾っちゃいますよねぇ」

セセリア　「ふふっ、鼻息、荒くなってきましたね。もう限界ですかぁ」

エミル　「いいですよぉ。記念すべき第一回目の種撒き射精、しちゃってくださ～い」

セセリア　「国民全員の子宮にぴゅっぴゅするところ想像してぇ、びゅるっ、びゅるる～～～、って出しちゃってくださいねぇ」

エミル　「じゃあ、お漏らしカウントダウン、いきますよぉ。ぜ～～～ろ、で、強烈な耳舐めしますからねぇ」

セセリア　「それじゃあ、ご～～～お。ほーら、部屋中に籠もってるエルフの甘ーい体臭、胸いっぱいに吸いこんでくださーい、ふふっ」

エミル　「よ～～～ん。むにゅうっ、って体に押しつけられてるおっぱいの柔らかさも、しっかり意識してくださいねぇ、ふふっ」

セセリア　「さ～～～ん。キンタマ、吊り上がってきてますねぇ。数億匹の遺伝子オタマジャクシ、卵子レイプしたくて張り切ってる」

エミル
「に～～～い。オチンポも精子も、本気種づけだって理解してるんですよね～。孕ませ本能、ビンビンのギンッギン」

セセリア
「い～～～ち。ああッ、もう出るッ。人生初のガチ交尾射精、始まっちゃうッ」

エミル
「ぜ～～～ろ。ああッ、イクイクッ、イクイクイクぅううううう～～～～ッ」

セセリア
「は～い、ぴゅっぴゅ、ぴゅっぴゅっぴゅ～～～～～」

エミル
「は～い、ぴゅっぴゅ、ぴゅっぴゅっぴゅ～～～～～」

セセリア
「んれろっ、じゅるれるっ、んろんろっ、じゅるるッ。じゅるちゅぱっ、れるれるッ、じゅるじゅるじゅるじゅるじゅる～～～ッ」

エミル
「んれろっ、じゅるれるっ、んろんろっ、じゅるるッ。じゅるちゅぱっ、れるれるッ、じゅるじゅるじゅるじゅるじゅる～～～ッ」

セセリア
「ふふっ、お射精、始まりましたね。あんっ、私の中にもッ……ああッ、すごい、熱いのがびゅるびゅるってッ、んんんッ……！」

エミル
「んっ、私も、んんッ……！　ああッ、私、処女なのに中出しされてるッ、んふっ、んんんッ……！」

エミル　「はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ。……中出し、すごいって聞いてたけど、まさかここまでだなんて」

セセリア　「はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ。……本当に。今頃、多くの国民が驚いているでしょうね」

エミル　「主様、大丈夫？　射精ってすごく疲れるんでしょ」

セセリア　「お射精、お疲れ様でした。全国民を代表して、お礼申し上げます」

【トラック2】お掃除フェラからの、濃厚タマ舐めダブルフェラチオ

セセリア「主様の股間、射精直後でも、ビンビンでいらっしゃいますね」

エミル「ふふっ、さすがは私たちの主様」

セセリア「パンツの中、ヌルヌルで不愉快でしょう？　今、お口でお清めしますね」

セセリア「ああっ、すごいっ。パンツの膨らみ、こうして近くで見ると、ドキドキしてしまいます」

エミル「それにこの青臭いザーメン臭。ああん、嗅いでるだけでオマンコ蕩けちゃう」

セセリア「パンツ、お脱がせ致します。ああっ、すごい……！　これが本物のオチンポ……！」

エミル「この反りとカリ首の形、エッグ。いやらしすぎっ……！」

セセリア「ああっ、ダメっ、はしたないのに、臭い嗅いでしまうっ。すぅぅぅぅぅぅ～～～っ、はぁぁぁぁ～～～っ。すぅぅぅぅぅぅ～～～っ、はぁぁぁぁ～～～っ」

エミル「私もっ。すぅううううう～～～っ、はぁあああ～～～っ。すぅううううう～～～っ、はぁあああ～～～っ」

セセリア「ああっ、これすごいわっ。オチンポのオス臭とザーメン臭がすごくて、メスの本能、ビンビン刺激されてしまうっ……！」

エミル「ほんと、頭がクラクラするっ。こんなの反則っ……！」

セセリア「ああっ、主様、ご覧ください。フィギュアのように整った美貌なのに、オチンポ欲しさ丸出しにしている、私たちのメスの表情を」

エミル「王女としての清楚さを捨て、目をとろんと蕩けさせたハメ乞い淫乱フェイス、しっかりと目に焼きつけてください」

セセリア「ああっ、この臭い、本当にキクっ……！」

エミル「子宮に響きすぎて、癖になりそうっ……！」

セセリア「ではこれより、この立派なオチンポ様、舌で舐め清めさせて頂きます」

エミル「王女姉妹のお掃除フェラ顔、存分に堪能してくださいね」

セセリア「んれろっ、れろれろっ、れるれるっ、れるるっ。んじゅるっ、じゅるちゅぱっ、んろんろっ、れるれるれるっ。んろっ、じゅるれるっ、んろんろっ、じゅるじゅるじゅるじゅる〜〜〜ッ」

エミル「んれろっ、れろれろっ、れるれるっ、れるるっ。んじゅるっ、じゅるちゅぱっ、んろんろっ、れるれるれるっ。んろっ、じゅるれるっ、んろんろっ、じゅるじゅるじゅる〜〜〜ッ」

セセリア「ああっ、これが憧れの、ザーメンの味っ」

エミル「これ美味しすぎっ。舌が勝手に動いちゃうっ」

セセリア「あん、エミル、あなたの舌遣いが激しすぎるから、舌同士が当たって恥ずかしいわ」

エミル「激しいのはお姉様もでしょ。王女には見えない舌の絡め方して」

セセリア「あん、だって、このオチンポ、美味しすぎるから。ああん、すごい。このカリの括れ、舌を絡めているだけで最高っ……！」

エミル「えぐみのあるしょっぱい味わい、子宮にキクッ。一生舐めてたいくらいっ……！」

セセリア「舐め清め、終わりました。最後に尿道内の残り汁、お吸い致しますね。んちゅっ、ちゅうううう〜〜〜ッ」

エミル　「あん、ズルい。私にもわけて」

セセリア　「ふふっ、しょうがないわね。んむっ、んんっ、んんんっ。んじゅるっ、れろじゅるっ、じゅるれるっ、じゅるるじゅるじゅるッ」

エミル　「んむっ、んんっ、んんんっ。んじゅるっ、れろじゅるっ、じゅるれるっ、じゅるじゅるじゅるッ」

セセリア　「姉妹でキスするの、さすがに恥ずかしいわ」

エミル　「でも見て。オチンポ、姉妹レズキスで、ビンビンに反応してる、ふふっ」

セセリア　「じゃあ、もっと興奮して頂きましょうか。というわけでぇ、顔を近づけてぇ。はぁあああ～～～ッ」

エミル　「こっちもぉ。はぁあああ～～～ッ」

セセリア　「吐息、ザーメンの臭いがしますでしょう？　私たちの口、主様のザーメンでマーキングされたんですよぉ」

エミル　「トップアイドル並みの美人顔なのにぃ、口からザーメン臭させちゃってる。ギャップのエロさでぇ、キンタマ精子作りまくり」

セセリア　「王国内では今、何千という恋人同士が、私たちのように、主様のザーメンを舐めあっているんですよぉ」

エミル　「顔だけで勃起間違いナシの美女エルフたちがぁ、エローい体をねっとり絡めあって、お互いの中出しザーメン、夢中でナメナメしちゃってる」

セセリア　「明日から三日間は、国民の休日です。国民の大半が家に籠もってぇ、待ちに待ったザーメンプレイを堪能しまくり」

エミル　「国民全員が淫乱発情モード。国全体がぁ、むせかえるようなザーメン臭とオマンコ臭に包まれちゃう」

セセリア　「みーんな、エッロエロの、ムッラムラ」

エミル　「全身べったべたの、ぬっるぬる」

セセリア　「そのすべてを生み出すのがぁ、主様の、オ、チ、ン、ポ」

エミル　「主様こそがぁ、エルフィンランドの王。すべての女たちの所有者」

セセリア　「お望みならぁ、私たちのお母様や叔母様も抱いて頂けます」

エミル　「男の夢、親子どんぶり。ああん、想像しただけで、恥ずかし過ぎてオマンコ疼いちゃう」

セセリア　「ふふっ、オチンポ、ビックンビックン反応なさってる」

エミル　「こんなにオチンポイラつかせられたら、当然ですよねぇ、ふふっ」

セセリア　「では、今度こそ本当の舐め奉仕、させて頂きますね」

セセリア　「ああっ、主様のキンタマ、こうして顔を近づけると、オスの臭いが強烈でたまりませんっ」

エミル　「見た目もずっしり重そうで、ここでザーメン作られてると思うと、子宮が疼いちゃう」

セセリア　「ああっ、主様のキンタマ、素敵っ。んれろっ、れろれろっ、れるれるっ、れるれるれるんっ。んれるっ、れろれるっ、れろんれろんれろんっ、れるれるれる〜〜〜んっ」

エミル　「んれろっ、れろれろっ、れるれるっ、れるれるれるんっ。んれるっ、れろれるっ、れろんれろんれろんっ、れるれるれる〜〜〜んっ」

セセリア　「ふふっ、主様、かわいいお声。タマ舐め、そんなにもお感じになるのですかぁ」

エミル　「キンタマ、嬉しそうに動いてる。ドンドン精子作ってるの、丸わかりですよぉ」

セセリア　「私たちの下品なタマ舐め顔ぉ、しかとご覧くださいませ」

エミル　「トップアイドル級美人フェイスが、キンタマにドエローく舌絡める光景、堪能してくださいねぇ」

セセリア　「舐めるだけではございませんよぉ。まずはぁ、吸いついては放してぇ、ちゅううううッ、ちゅぽッ。ちゅうううううッ、ちゅぽッ」

エミル　「こっちもぉ、ちゅうううううッ、ちゅぽッ。ちゅうううううッ、ちゅぽッ」

セセリア　「それからぁ、片方のタマをすっぽり口に含んでぇ、口内でタマを転がすようにぃ、んろんっ、んろんろっ。んろんっ、んろんろっ、んろんろんろんろんっ」

エミル　「こっちもぉ、んろんっ、んろんろっ。んろんっ、んろんろっ、んろんろんろんろんっ」

セセリア　「いかがですかぁ、私たちのぉ、ドスケベタマしゃぶりご奉仕は」

エミル　「口内マッサージ気持ちよすぎてぇ、赤ちゃんミルク製造工場、フル稼働しちゃいますよねぇ」

セセリア　「しかも私たちはぁ、下品に鼻の下伸ばした、タマしゃぶり顔」

エミル　「男ならザーメンぶっかけたくなること間違いナシの清楚フェイスがぁ、陰毛まみれになっちゃってる」

セセリア　「ああん、タマタマ様ぁ、尊いザーメン、もっともっと作ってくださいませぇん」

エミル　「国民全員種づけ用の赤ちゃん汁、頑張って作りまくってくださ〜い」

セセリア　「ふふっ、主様ぁ、私たちの手を握ってきてぇ、どうなされたのですかぁ」

エミル　「タマしゃぶり気持ちよすぎてぇ、イキそうになっちゃった？　ふふっ」

セセリア　「オチンポのイライラ、限界のようですね」

エミル　「じゃあオチンポしゃぶり、しちゃいますね。っと、その前にぃ……」

セセリア　「私たちの顔にぃ、オチンポマーキングさせて頂きますねぇ。オチンポに顔を擦りつけてぇ、んっ、んんっ。んっ、んんんっ」

エミル　「私もぉ、んっ、んんっ。んっ、んんんっ」

セセリア　「ああっ、これすごいわっ。オチンポの硬さと熱さが顔に伝わってきて、んっ、んんっ」

エミル　「顔が犯されてるみたいで、たまらなく興奮しちゃうっ、んっ、んんんっ」

セセリア　「主様、ご覧ください。私たちの顔が、我慢汁で汚されていくところっ」

エミル　「プリンセスなのに、オチンポの臭いが顔にべっとり染みついちゃってるっ」

セセリア　「ああん、もう我慢できませんっ。まずはご挨拶のキス、致しますね。男性の唇を知らないバージンリップを尖らせてぇ、亀頭の先端にぃ、ん～っ、ちゅっ」

エミル　「リップグロスの広告みたいにツヤツヤの唇でぇ、ん～っ、ちゅっ」

セセリア　「そのまま竿全体にぃ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ」

エミル　「ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ」

セセリア　「いかがですかぁ。高貴な唇でオチンポ全体にちゅっちゅされるの、オスの征服欲、満たされますよねぇ」

エミル　「贅沢すぎるキスご奉仕にぃ、王様気分になっちゃいますよねぇ」

セセリア　「ふふっ、タマタマ、ピクピク反応なさってる」

エミル　「主様、本当にわかりやすいんだから、ふふっ」

セセリア　「では、私からおしゃぶり致しますね。オチンポ、頂きまぁ～す。んむっ、んふっ、んんんっ」

エミル　「うわっ、根元まで一気に飲みこまれちゃった。私はまたキンタマをぉ」

セセリア　「んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、んっ。んむっ、んじゅるっ、じゅるれるっ、じゅるるっ。んちゅるっ、じゅるちゅぱっ、ちゅぱれるっ、じゅるるっ。んむんっ、じゅるれるっ、れろじゅるっ、じゅるじゅるじゅる～～～ッ」

エミル　「ふふっ、窄めた唇と口内粘膜が、オチンポちゅぱちゅぱ扱いてる。唾液もたっぷりで、舌も回転させてるから、すっごく気持ちよさそう」

エミル　「お姉様のおしゃぶり、激しいのに優しいでしょ？母性たっぷりで、まるで子供をあやすお母さん」

セセリア　「主様、ママの口の中、きもちいいでちゅか～。イライラオチンポさん、ママがいーっぱい、気持ちよくしてあげまちゅからね～」

エミル　「主様、嬉しそうな声出しちゃって。主様のマザコン♪　へんた～い♪」

セセリア　「男の子だから、仕方ないでちゅよね～。ドスケベママに好きなだけ甘えて、白いおしっこ、たーくさんぴゅっぴゅしまちょうね～」

エミル　「主様のマザコンキンタマぁ、もっと気持ちよくしてあげまちゅね～」

セセリア　「ああっ、オチンポ、美味しいでちゅ～。お口の中レイプされてるみたいで、ママ、とっても興奮しちゃいまちゅ～。んっんっんっ。んむんっ、じゅるれるっ、じゅるちゅぱっ、じゅるるっ。んじゅるっ、れろじゅるっ、じゅるじゅるッ、じゅずずずずず～～～ッ」

エミル　「お姉様、鼻の下伸びすぎ。頬もへこんでるし。プリンセスとは思えない、お下品おしゃぶりフェイス」

セセリア　「ああん、ママにザーメン飲ませてくだちゃ～い。ママ、こゆーいオチンポミルク、飲みたいんでちゅ～」

エミル　「あん、お姉様、まだ射精はダーメ。私もしゃぶりたいんだから。ってことで、交代ね」

セセリア　「はい、どうぞ」

エミル　「それじゃ、頂きまーす。んっ、んふっ、んんっ。んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、んっ。んむっ、んじゅるっ、じゅるれるっ、じゅるるっ。んちゅるっ、じゅるちゅぱっ、ちゅぱれるっ、じゅるるっ。んむんっ、じゅるれるっ、れろじゅるっ、じゅるじゅるじゅる～～～ッ」

セセリア　「では私はぁ、キンタマをぉ」

エミル　「ああん、オチンポ、本当に美味いしいっ。太くて硬くて、しゃぶってるだけで蕩けちゃうっ」

セセリア　「エミルのおしゃぶり、なんだか小悪魔っぽいわね。奉仕というより、責めてるみたいな」

エミル　「だって主様、そういうの好きそうだし。ほ～ら、さっさと私のフェラに負けて、みっともなくお漏ししちゃってくださ～い」

セセリア　「こんなにご立派なキンタマをお持ちなんだから、簡単には負けませんよねえ、ふふっ」

エミル　「ほらほら、負けちゃえ。早く敗北射精しちゃってくださ～い」

セセリア　「タマタマも精子、たーくさん作ってくださいねぇ」

エミル　「どうしたんですか、主様ぁ。たまらなく切なそうな声出しちゃって」

セセリア　「オチンポ、もう我慢の限界ですかぁ」

エミル　「じゃあ、最後は二人で舐めてイカせてあげますね」

セセリア　「それではぁ、亀頭の括れに舌をねーっとり絡ませるようにぃ、んれろんっ、れろれろっ、れるれるっ、じゅるるっ。んれろんっ、れろじゅるっ、んろんろっ、れるれるれるれるれる～～～んっ」

エミル　「んれろんっ、れろれろっ、れるれるっ、じゅるるっ。んれろんっ、れろじゅるっ、んろんろっ、れるれるれるれるれる～～～んっ」

セセリア　「さあ主様ぁ、お出しになってくださ～い。ドロッドロの濃厚ザーメン、私たちのフェラ顔にぶっかけてくださいませぇん」

エミル　「国宝級のドエロフェイス、くっさーいオチンポ汁でぇ、べっとりけがしてくださいねぇん」

セセリア　「ふふっ、出ますかぁ、出るのですねぇ。あん、ください、こってり赤ちゃんミルク、私たちのエロ顔にぶっかけてぇ～ん」

エミル　「ああん、出して～ん。ザーメンシャワーで、オチンポミルク化粧してぇ～ん」

セセリア　「ああっ、出してっ。出して出してっ」

エミル　「出るっ、出る出るっ、出る出る出るぅ～ん」

セセリア「ああっ、すごいっ。オチンポビクビク跳ねて、熱いの、いっぱい顔に掛かってるっ……！」

エミル「子宮にもビュルビュル出てるっ。ザーメンシャワー中出し、すごすぎっ……！」

セセリア「オチンポ汁、もっとくださいっ。私たちの顔、ドロドロのベットベトにしてぇん」

エミル「ああん、もっと出してっ。私たちの極上エルフフェイス、ザーメンで徹底的にマーキングしてぇ～ん」

セセリア「主様、二回目のお射精も、すごかったです」

エミル「私たちの顔、本当にザーメンまみれにされちゃった、ふふっ」

セセリア「エミル、顔、舐めて綺麗にしてあげるわね。んれろんっ、れろれろっ、れろれろれろんっ」

エミル「あん、お姉様。じゃあ私も、んれろんっ、れろれろっ、れろれろれろんっ」

セセリア「ああっ、ぶっかけザーメン、姉妹で舐めあってるなんて、破廉恥すぎて興奮してしまうっ。」

エミル「ほんと、こんなの恥ずかし過ぎて、どこまでも興奮しちゃうっ」

【トラック3】　ドスケベベロチュー&ムラつかせ妄想語りダブル手コキ

セセリア　「それにしてもオチンポ、全然萎えませんね」

エミル　「でも、さすがにちょっと疲れてるでしょ。ってことでぇ、キ、ス、しましょうか」

セセリア　「先ほど申しましたように、エルフの唾液にはぁ、人間男性への体力回復効果があるんですよぉ、ふふっ」

エミル　「キスするだけでぇ、子作り本能全開。オチンポフル勃起でぇ、キンタマもフル稼働」

セセリア　「では、また添い寝してぇ、顔をぐっと近づけてぇ」

エミル　「はーい、こっちも急接近しちゃいま～す」

セセリア　「ふふっ、息を呑まれてぇ、どうなさったんですかぁ」

エミル　「仕方ないですよねぇ。私たちの顔、間近で見るとぉ、ノーメイクなのに怖いくらい整ってるし」

セセリア　「人間界なら数千万人に一人クラスのぉ、国宝級美人顔」

エミル　「この顔を生オカズにできるなら大金出してもいい、ってくらいのぉ、スーパープレミアムエロフェイス」

セセリア　「しかも主様はぁ、女性への免疫、ゼ、ロ、の童貞さん」

エミル　「なのにこんなにドエロ美人姉妹にぃ、ゼロ距離で見つめられちゃってる」

セセリア　「ああん、ダメぇん、見つめないでぇ～ん。この顔、つよつよすぎるぅ～ん」

エミル　「ああ～ん、許してぇん。このままじゃ、顔だけで射精しちゃう～ん」

セセリア　「ふふっ、主様、おロパクパクさせて、おかわいいです」

エミル　「顔だけでこんなに興奮されるなんて、女冥利に尽きるって感じ」

セセリア　「ほーらぁ、見てくださ～い。このぉ、つっやつやでぷっるぷるのぉ、く、ち、び、る。このお菓子みたいに甘そうな唇がぁ、主様のファーストキス、頂いちゃうんですよぉ」

エミル　「さっきまでフェラしてたとは思えない、花びらみたいに清楚で可憐なリップがぁ、主様の唇に、むちゅうううううッ、って密着しちゃうんです」

セセリア「というわけでぇ、キス、いきますよぉ。はーい、むっちゅうううううッ」

エミル「私もぉ、はーい、むっちゅうううううッ」

セセリア「ふふっ、主様ったら、唇同士をくっつけただけなのに、すごく嬉しそうなお顔」

エミル「童貞だからぁ、キスした、ってだけで感動してるんですよねぇ、ふふっ」

セセリア「唇同士をぴったり密着させると、触れあった部分から幸福感、生まれちゃいますよねぇ。というわけでぇ、さっきより密着度強めにぃ、はーい、むっちゅうううううッ」

エミル「はーい、むっちゅうううううッ」

セセリア「ふふっ、主様、幸せそうでほんとおかわいい」

エミル「でもぉ、本番は、こ、こ、か、ら。舌を絡めるドスケベベロチューー、したいでしょ？」

セセリア「舌をヌルヌル絡めあってぇ、唾液交換する濃厚キス、なさりたいですよねぇ」

エミル「じゃあ口を開いて、舌を大きく伸ばしてくださ～い。そしたらぁ、唾液をたーっぷり口に溜めてぇ、は～い、召し上がれ。んべ～～～っ」

セセリア　「プリンセスエルフのとろっとした唾液、甘くて美味しいでしょう？　私もぉ、は～い、召し上がれ。んべ～～～っ」

エミル　「ふふっ、主様、嬉しそうな顔しすぎ」

セセリア　「私たちの唾、人間界なら、大金を払ってでも飲みたがる人が沢山いるはずですよぉ」

エミル　「ベロキスで直飲みできるお店開いたらぁ、毎日朝から晩までぇ、大盛況間違いなし」

セセリア　「世界中の男たちがぁ、たった数秒のためにだけ大枚はたきたがる、エルフ王女姉妹の、濃厚スペシャル唾飲ませベロチュー」

エミル　「一生オナニーのオカズリピート確定のぉ、幸福感で脳が蕩ける、極上の舌セックス」

セセリア　「それが味わえるのはぁ、世界中でぇ、主様、だけ」

エミル　「このぉ、思わずしゃぶりつきたくなるエッローいベロを味わえるのはぁ、主様ただ一人」

セセリア　「ふふっ、鼻息が荒いですよぉ。ベロキス、したくてたまらないんですかぁ」

エミル　「でもぉ、オチンポも切なくて、たまらないでしょ」

セセリア　「というわけでぇ、私たち姉妹が、恋人繋ぎみたいに指を絡めるように手を重ねてぇ」

エミル　「そのまま二人の手でぇ、は～い、ぎゅっ」

セセリア　「は～い、ぎゅっ」

エミル　「ふふっ、主様のオチンポ、しっとりすべすべの指で、握られちゃいましたよぉ」

セセリア　「ガラス細工みたいにほっそりして、雪のように白いプリンセスハンドが、グロテスクな赤黒い竿に、絡みついてるんです」

エミル　「握られてるだけでも興奮するのに、動かされたらどんなに気持ちいいか、想像できますか？　というわけでぇ、は～い、シコシコ～」

セセリア　「シコシコシコ～」

セセリア　「でもってぇ、極上のファーストベロチュー、ご堪能くださいませ」

エミル　「まずは私からぁ。んむっ、んむむっ、んんんッ。んじゅるっ、んろんろっ、れろじゅるっ、じゅるるっ。んむんっ、じゅるれるっ、れろじゅるっ、じゅるじゅるっ。んふんっ、れるれるっ、じゅるれるっ、じゅるじゅるじゅる～～～ッ」

セセリア「ふふっ、初めてのベロチュー、気持ちいいですねぇ。ああ～ん、気持ちよすぎて頭が痺れるぅ～ん。はぁあああ～～～ッ」

エミル「主様の舌、美味しすぎ。ほーら、もっと舌絡めてくださ～い」

セセリア「ふふっ、主様、顔蕩けきってますね。もっと興奮できるように、キスしながら私たちのこと、お話しますね。エミルは学生時代、チアリーディング部だったんですよ。ほ～ら、想像なさってくださ～い。チアコスに包まれたぁ、エミルの若さ溢れるＪＫボディ。動くたびにおっぱいゆっさゆさ揺れてぇ、ひらひら揺れるプリーツスカートからはぁ、真っ白なアンスコがチラ見え。眩しいくらいに白い太ももはむっちむち」

エミル「ちなみにぃ、おっぱいはＨカップで～す」

セセリア「もし人間界だったらぁ、チア部の周りは、常にエミル目的の男子でいっぱい。全員ビンビンに勃起しながらぁ、ギラついた目でエミルを視姦しまくってる。『ああっ、エミルちゃん、エロ過ぎっ。レイプしてぇ！』『あのホルスタインみたいなデカ乳、揉みまくりてぇ！』『エミル先輩嫁にして、朝から晩までハメハメしまくりてぇ！』」

エミル「ああ～ん、こわ～い。エミル、レイプされちゃう～ん」

セセリア　「男子たちはぁ、盗撮画像や動画でオナニーしまくり。妄想の中で、エミルはありとあらゆるドスケベプレイをされちゃうんです。全校男子にぃ、全身ザーメンまみれにされちゃってる」

エミル　「ああ～ん、やめてぇ～ん、ザーメンかけないでぇ～ん」

セセリア　「このままだったらぁ、エミル、他の男子に犯されちゃいますよぉ。それが嫌だったらぁ、もっと激しいキスで、エミルのお口、レイプなさらないと」

エミル　「そうですよぉ。もっと激しくしてくれないとぉ、このエローい舌と唇、他の男子の者になっちゃいますよぉ」

セセリア　「ふふっ、その調子です。レイプベロチュー、がんっばれ、がんっばれ。フレー、フレー、べろちゅ～」

エミル　「ああん、主様ぁん。もっとエミルの舌、もっと食べてくださ～い。エミルのお口、全部主様の物にしてぇ～ん」

セセリア　「ああ～ん、チアコスプリンセスの舌、美味しい～ん。キスしてるだけで、脳みそ蕩けるぅ～ん」

セセリア　「主様、もうキスでメロメロって感じですね、ふふっ」

エミル　「でもぉ、ここでお終いで～す」

セセリア　「あらあら。唇、寂しくなっちゃいましたねぇ。というわけでぇ、今度は私のベロキス、味わってくださいませ。んむっ、んむむっ、んんんッ。んじゅるっ、んろんろっ、れろじゅるっ、じゅるるっ。んむんっ、じゅるれるっ、れろじゅるっ、じゅるじゅるっ。んふんっ、れるれるっ、じゅるれるっ、じゅるじゅるじゅるじゅる～～～ッ」

エミル　「ふふっ、お姉様とのベロチュー、すごいでしょ。お姉様の舌、私より長いから、口の中犯されてる気分。優しいのに激しい、舌逆レイプ。はぁあああ～～～ッ」

セセリア　「主様ぁ、もっと舌、食べさせてくださ～い」

エミル　「ふふっ、お姉様、すっかり捕食モードになっちゃってる。主様の舌、もう逃げられない」

セセリア　「そうですよぉ。ぜーったい、逃がしませんからねぇ」

エミル　「お姉様は学生時代、体操部だったんですよ。ほーら、想像してくださ～い。お姉様のぉ、むっちむち体操服ＪＫ姿。名札のついた胸元はぱつぱつでぇ、ブルマに包まれた安産型のお尻はむっちむち。全身からぁ、エローいフェロモン出まくってる」

セセリア　「ちなみにぃ、私はＩカップですよぉ」

エミル　「もし人間界だったら、お姉様も全校男子のヘビロテオカズ確定。お姉様は優しいからぁ、冴えない童貞くんたちに頼まれたら、筆下ろしてあげちゃうかも」

セセリア　「ふふっ、そうかもしれませんねぇ」

エミル　「体育倉庫で全裸になってぇ、体操服姿のお姉様を囲む童貞くんたち。お姉様に向けられたオチンポたちはぁ、期待感でビッンビン。ギラついた視線はぁ、牛みたいなエロ乳に釘付け。『セセリア先輩、僕、授乳手コキがいいです！』『俺はパイズリで！』『おっぱい吸いながら、童貞卒業させてください！』」

セセリア　「あらあら、一度にお願いされると、困っちゃいますねぇ」

エミル　「主様ぁ、このままじゃお姉様、冴えない童貞くんたちに取られちゃいますよぉ。それが嫌だったらぁ、もっと激しくベロチューしないと」

セセリア　「そうですよぉ。お前は俺の物だ、ってわからせる、男らしい舌レイプ、してくださいませぇん」

エミル　「ふふっ、主様、必死で舌使っちゃって。わからせベロキス、がんっばれ、がんっばれ。フレー、フレー、べろちゅ～」

セセリア「ああ～ん、主様ぁん、もっとベロ絡めてぇ、私のベロ、マーキングしてくださいませぇ～ん」

エミル「ふふっ、むちむち体操服姿のお姉様とのキス、気持ちいいですねぇ。でもぉ、またキス、ストーップ」

セセリア「はーい」

エミル「主様、切なそうな声出しちゃって。お預けされたワンちゃんみたい」

セセリア「オチンポ、もう我慢汁でトロトロですよぉ。このまま我慢汁まみれのプリンセスハンドでぇ、どぴゅんお漏らし、したいですよねぇ」

エミル「むっちむちの孕ませ頃ボディ押しつけられながらぁ、ベロチュー射精、したいよですよねぇ、ふふっ」

セセリア「じゃあ手コキ、早くしちゃいますよ～。はーい、シコシコシコ～」

エミル「でもってぇ、また顔をギリギリまで近づけてぇ」

セセリア「つっやつやでぷりっぷりの唇でぇ、二人交互にぃ、むちゅうううううッ。ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ」

エミル「むちゅうううううッ。ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ」

セセリア　「どうですかぁ。全校男子のオナペットエルフ姉妹との交互ちゅっちゅ、興奮しますかぁ」

エミル　「二人からちゅっちゅされてぇ、最高のハーレム気分、味わってますよねぇ、ふふっ」

セセリア　「キンタマでぎゅんぎゅん作られてるこってりザーメン、出していいんですよぉ」

エミル　「二人分の甘ーい唇感じながらぁ、腰が蕩ける王様気分射精、してくださ～い」

セセリア　「射精が始まったら、ベロチューに切り替えますからねぇ」

エミル　「舌を伸ばしてぇ、三人でれろれろれろ～ん、って絡めるんですよぉ」

セセリア　「それじゃあ、射精カウントダウン、いきますよぉ。ご～～～お」

エミル　「よ～～～ん」

セセリア　「さ～～～ん」

エミル　「に～～～い」

セセリア　「い～～～ち」

セセリア　「ぜ～～～ろ」

エミル　「ぜ～～～ろ」

セセリア　「んれろっ、れろれろっ、れるれるれるっ。んれるっ、れるじゅるっ、んろんろっ、れるれるれるれる～～～～んっ」

エミル　「んれろっ、れろれろっ、れるれるれるっ。んれるっ、れるじゅるっ、んろんろっ、れるれるれるれる～～～～んっ」

セセリア　「あんっ、中出しの勢い、すごいっ。ああん、主様ぁ、もっとベロくださ～いっ」

エミル　「ああん、もっとスケベに舌絡めてぇ～ん。もっともっと唾液くださ～い」

セセリア　「主様、ベロチュー手コキ射精、お疲れ様でした」

エミル　「ザーメン、胸元まで飛んじゃってる。よっぽど気持ちよかったんですね、ふふっ」

セセリア　「今、舌で綺麗に致しますね。んれろっ、れろれろっ、れるれるれるっ。ああん、ザーメン、濃厚で美味しいっ」

エミル　「あん、ほんと、主様の赤ちゃんミルク、喉に絡みついてくるのが最高っ。んれるっ、れろれるっ、れるれるっ、じゅるじゅるじゅる～～ッ」

【トラック４】セセリアの騎乗位筆下ろし＆ダブル言葉責め

セセリア　「はい、これでお体、綺麗になりました」

エミル　「オチンポ、私たちの唾たっぷり飲んだだけあって、射精前より元気な感じ、ふふっ」

セセリア　「それではぁ、次はお待ちかねのぉ、アレ、致しましょうか」

エミル　「主様みたいな童貞くん憧れのぉ、ふ、で、お、ろ、し、ですよぉ」

セセリア　「全身フェロモンの塊みたいなぁ、超絶ドスケベ美女姉妹による、夢の初体験」

エミル　「エッローいメス臭の充満しきったこの子作り専用ルームでぇ、最高の童貞卒業、させてあげますねぇ」

セセリア　「ではさっそく、主様に跨がって、っと」

エミル　「私は添い寝しちゃいま～す」

セセリア　「主様、見えますかぁ？　これが私の、オマンコですよぉ。プリンセスエルフの、蕩けきった欲しがりオマンコ」

エミル　「お姉様、指で広げて、中まで見せてあげなきゃ」

セセリア　「は～い、くぱぁ」

エミル　「うわっ、エッロ。愛液まみれの粘膜がヌラヌラ光ってて、ドスケベ丸出し」

セセリア　「ちなみにエルフの子宮口は、本人が開こうとしない限りぴっちりと閉じて、ザーメンが洩れないようになってるんです」

エミル　「生オマンコ、入れたらすっごく気持ちいいですよぉ。中は温かくてトロトロでぇ、柔らかいヒダ肉がたーっぷり」

セセリア　「しかもぉ、穴全体が、オチンポに嬉しそうに吸いつくんです。一旦咥えこんだから、ザーメン搾り取るまではオチンポ放さない」

エミル　「見て、穴の奥に、何か見えるでしょ。あれが、お姉様の処女の証」

セセリア　「ああん、処女膜見られるの、さすがに恥ずかしいわ」

エミル　「主様のオチンポ、あのヒクヒク動いてる穴にぃ、食べられちゃうんですよぉ。ザーメン搾り取る気満々のバージンホールに、根元までずっぽり飲みこまれちゃう」

セセリア　「エロ穴全体でぇ、たーっぷりご奉仕、致しますからねぇ」

エミル　「童貞卒業する心の準備、できましたかぁ？」

セセリア　「それでは筆下ろし、させて頂きますねぇ。主様の童貞、頂きま～す。あっ、んふっ、んんんっ。あっ、んあっ、はぁあああああああ～～～ッ……」

エミル　「はーい、童貞卒業、おめでと～。はぁあああああ～～～ッ」

セセリア　「オチンポ、中でビクビク跳ねてますよぉ。大人になれた感動、私にまで伝わってきます、ふふっ」

エミル　「ほら、手、繋ぎましょう。恋人繋ぎで、ぎゅっ」

セセリア　「こっちの手もぉ、ぎゅっ」

エミル　「柔らかいヒダ肉でオチンポ抱きしめられながら、両手恋人繋ぎされるの、幸福感がすごいでしょ」

セセリア　「性欲と安心感、同時に満たされて、幸せいっぱいですよねぇ」

エミル　「しかもぉ、プリンセスのバージンまで奪えてる。オスの征服欲と優越感、満たされまくり」

セセリア　「この世界はぁ、丸ごと主様の物なのですよぉ。ん～、ちゅっ」

エミル　「王様気分、とことんまで味わってくださいね、ん～、ちゅっ」

セセリア「それでは、腰振り、始めますね。あんっ、ああっ、あぁんっ。あんっ、あっ、あっ、んあっ。んふっ、んあっ、ああっ。んあっ、はあっ、ああっ、あぁんっ」

エミル「ふふっ、お姉様の腰使い、エロ過ぎ。おっぱいもゆっさゆっさ揺れてるし」

セセリア「あん、だって気持ちいいんですもの。クリトリスが擦れるし、亀頭が奥まで届いてるの」

エミル「見て主様。お姉様の雪みたいな真っ白な肌、ピンクに色づいちゃってる。汗も滲んでて色っぽすぎ」

エミル「ほら、ゆさゆさ揺れてるエロ乳、揉んじゃってください」

セセリア「あんッ、んんんッ」

エミル「お姉様のHカップおっぱい、柔らかいのに張りがすごいでしょ。ボリュームもたっぷりでぇ、手のひらに全然収まらない」

セセリア「主様ぁ、好きなだけモミモミなさってくださいねぇ」

エミル「孕ませたらぁ、母乳も飲み放題ですよぉ。赤ちゃん用の濃厚ミルク、吸い放題」

セセリア「母乳プレイ、好きなだけしてあげますからねぇ」

エミル　「ふふっ、主様、本当に幸せそう。でもぉ、自分の置かれた状況、本当に理解できてるんですかぁ」

セセリア　「主様はぁ、もうぜーったい、私たちエルフから逃げられないんですよぉ。はぁあああ〜〜〜ッ」

エミル　「発情しまくり淫乱種族の種馬としてぇ、この先一生、子作り生活させられちゃう。はぁあああ〜〜〜ッ」

セセリア　「来る日も来る日も、オマンコ、オマンコ」

エミル　「人生最後の日まで、ハメまくりのねっとり種づけ生活」

セセリア　「でもぉ、主様はドスケベマゾだからぁ、それが嬉しいんですよねぇ」

エミル　「毎日私たちに犯されまくると思うと、マゾオチンポ、ビンビンになっちゃうんですよねぇ」

セセリア　「というわけでぇ、もっと逆レイプ気分、味わってくださ〜い。あんっ、ああっ、あぁんっ。あんっ、あっ、あっ、んあっ。んふっ、んあっ、ああっ。んあっ、はあっ、ああっ、あぁあんっ」

エミル　「あんっ、ああっ、あぁんっ。あんっ、あっ、あっ、んあっ。んふっ、んあっ、ああっ。んあっ、はあっ、ああっ、あぁあんっ」

セセリア「ふふっ、こうして腰を上下に使われると、犯され感がすごいでしょう？」

エミル「しかも左右から喘がれてるからぁ、二人同時に犯されてるみたい」

セセリア「ド淫乱S級美女エルフ姉妹のぉ、ダブル騎乗位逆レイプ」

エミル「主様は今ぁ、二つのオマンコに交互に犯されてるんですよぉ」

セセリア「マゾオチンポ、ドスケベエルフのエロ穴でしゃぶられてる」

エミル「騎乗位逆レイプで喜ぶなんてぇ、主様のぉ、へ、ん、た、い」

セセリア「女に犯されるのが大好きなぁ、よわよわマゾ男子」

エミル「ふふっ、主様の声、情けなさすぎ～」

セセリア「顔も蕩けきってて、最高におかわいいです」

エミル「ほ～ら主様ぁ、私たちのことぉ、ママだと思っていいんでちゅよ～」

セセリア「主様はマザコンだからぁ、ママに甘えながら、ぴゅっぴゅしたいんでちゅよね～」

エミル「ほーらボクちゃん、ママのねっとり生オナホ穴、もっと感じまちょうね～」

セセリア「ボクちゃんは赤ちゃんだからぁ、恥ずかしい声、好きなだけ出していいんでちゅよ～」

エミル「弱々な声、出せば出すほど気持ちよくなれまちゅからね～」

セセリア「ボクちゃん、声出せていい子でちゅね～。ご褒美にぱんぱん、早くしてあげまちゅね～」

セセリア「あんっあっあっあっ。あんっ、んはっ、ああっ、んんんっ。あんっ、んあっ、あぁんっ。あっあっあっあっ。んあっ、ああっ、はぁンッ、あぁぁンッ」

エミル「あんっあっあっあっ。あんっ、んはっ、ああっ、んんんっ。あんっ、んあっ、あぁんっ。あっあっあっあっ。んあっ、ああっ、はぁンッ、あぁぁンッ」

セセリア「ふふっ、主様、蕩けきった声お出しになって」

エミル「二人がかりの変態プレイ、たまらないんですよねぇ」

セセリア「こんな変態プレイしてくれるのはぁ、交尾だーい好きなぁ、私たちエルフだけですよぉ」

エミル「でもぉ、もし他の男性が召喚されたらぁ、私たち取られちゃうかも」

セセリア　「取られたくなかったらぁ、腰、動かしましょうねぇ。腰パンパンしてぇ、私たちを自分の物にしてくださ～い」

セセリア　「ふふっ、その調子ですよぉ。これならギリギリでぇ、他の男性の物にはならないかも」

エミル　「ギリギリだって。どうするぅ、主様ぁ？」

セセリア　「こんな孕ませ頃むちむちボディ、ぜーったい、取られたくないですよねぇ」

エミル　「国宝級ドスケベ生オナホ姉妹、何があっても独占したいですよねぇ」

セセリア　「だったらぁ、子宮に直接、こゆーいザーメン注いでくださ～い」

エミル　「子宮口にぴったり亀頭押しつけてぇ、ゼロ距離生中出し、しちゃいましょうねぇ」

セセリア　「限界まで腰を押しつけてぇ、一番奥深くでぇ、どぴゅ、どぴゅどぴゅ～」

エミル　「オチンポをビックンビックン跳ねさせて、びゅるっ、びゅるびゅる～」

セセリア　「生殖本能120％のぉ、本気種づけ」

エミル　「子宮を堕とす気満々のぉ、孕ませマーキング」

セセリア　「ふふっ、オチンポ、中で膨らんできましたよぉ。もう限界ですかぁ」

エミル　「ドロドロ孕ませ汁、バージン子宮に注ぎ込んでぇ、独占射精したいんですよねぇ」

セセリア　「それじゃあ、中出しカウントダウン、いきますよぉ。ご～～～お。ああん、主様ぁん、私の子育てルームにぃ、こゆいのたっぷりくださぁ～い」

エミル　「よ～～～ん。無防備プリンセス卵子、遺伝子オタマジャクシでレイプしてぇ～ん」

セセリア　「さ～～～ん。頑張って精子命中させないとぉ、私たち取られちゃいますからねぇ」

エミル　「に～～～い。オラッ、孕めッ、俺の子を産めッ、って感じで腰押しつけてぇ、わからせ中出し、しましょうねぇ」

セセリア　「い～～～ち。ああ～ん、もうダメぇ。孕ませミルク、出る出る出るぅ～ん」

エミル　「ぜ～～～ろ。はーい、どぴゅ、どぴゅどぴゅ、どぴゅどぴゅどぴゅ～～～っ」

セセリア　「ぜ～～～ろ。はーい、どぴゅ、どぴゅどぴゅ、どぴゅどぴゅどぴゅ～～～っ」

セセリア「あんっ、出てるっ。オチンポビクンビクン動いて、生中出しされてるッ」

エミル「んっ、すごいっ。子宮の壁にびゅるびゅるッて当たって、んんッ」

セセリア「ああっ、もうダメッ。イクッ、イキますッ、んくッ、んんん～～～ッ！」

エミル「私もダメッ。イクッ、イクイクッ、んくッ、んんん～～～ッ！」

セセリア「はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ。主様、生中出し、ありがとうございました」

エミル「はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ。射精の勢いと量、すごすぎ。ザーメン注がれただけでイッちゃった」

【トラック5】　ラブラブ好き好き言われまくり正常位

セセリア　「オチンポ、まだまだビンビンでいらっしゃいますね。次は正常位で腰、振ってみたくありませんか」

エミル　「全身むちむち食べ頃エルフの上に乗ってぇ、本能の赴くままズンズンパンパン、したいですよねぇ、ふふっ」

セセリア　「性欲全力でぶつけるピストンでエロ穴ズボズボしてぇ、オチンポイラつかせまくるメスエルフ、喘がせまくりたいですよねぇ、ふふっ」

エミル　「それじゃあ、私が横になりますね。よいしょ、っと……。でもってぇ、足を大きく開いてぇ、っと」

セセリア　「あらあら。エミルったら、大股開きの破廉恥おねだりポーズになっちゃって。オマンコもトロトロで準備万端」

エミル　「あん、言わないで、お姉様」

セセリア　「ふふっ、照れちゃって。ほら、指でオマンコ広げなきゃダメでしょう」

エミル　「わ、わかってるわよ。あ、主様、私のオマンコ、中までご覧ください」

セセリア　「主様、あれがエミルの、処女膜ですよ。プリンセスの、乙女の証」

エミル　「ううっ、処女膜見られるの、さすがに恥ずかしいわね」

セセリア　「エミルのオマンコ、愛液でもうトロトロ。オチンポほしくてヒクヒクしてる。さあ主様、処女、奪ってあげてくださいませ」

エミル　「主様、きてください。私の初めて、主様に捧げます。プリンセスバージン、受け取ってください。あっ、んふっ、んんんっ」

セセリア　「ふふっ、半分くらい入りましたね。抵抗感、あるでしょう？　それが処女膜ですよ」

エミル　「ああっ、主様っ、私をロストバージンさせてくださいっ」

セセリア　「遠慮せず、一気に貫いてあげてください。さあ、せーの」

エミル　「あっ、ああっ、はぁあああああああ～～～ッ……」

セセリア　「ふふっ、ずっぽり根元まで入りましたね。これで主様は、王女姉妹の処女を、ゲットしたんですよぉ。男の夢、姉妹丼」

エミル　「ああっ、オチンポ、すごいっ。太くて長くて、奥に当たってるっ……」

セセリア　「ふふっ、エミルったら、いつになく女の子の顔をして」

エミル　「あん、だってっ」

セセリア　「主様、エミルのバージンホールのハメ心地はいかがですかぁ。穴全体がキツキツでぇ、ヒダヒダがにゅるにゅる絡みついてきてぇ、入れてるだけで気持ちいいでしょう？」

エミル　「あんっ、主様っ、私の生オナホマンコ、お好きなように使ってください」

エミル　「あんっ、あっ、んあっ、ああんっ。あっ、あっ、あっ、あっ。あんっ、んはっ、はぁっ、んんんっ。あっ、はぁっ、んはっ、ああっ、んんんっ」

セセリア　「主様、腰使い、お上手ですよぉ。柔らかい肉ヒダを押し広げてオチンポ入れるの、癖になりそうでしょう。引き抜く時にヒダヒダがカリ首に絡みつくのも、たまらないですよねぇ」

エミル　「ああっ、主様のオチンポも、最高ですっ。奥にズンズン当たって感じちゃうっ」

セセリア　「たゆんたゆん揺れてるデカパイも、エロすぎですよねぇ。どこもかしこもむちむちのぉ、オチンポイラつかせボディ」

エミル　「あんっ、主様っ、オチンポイラつかせて申し訳ありませんっ」

セセリア　「ほら主様、エミルに抱きついてくださいませ。でもってぇ、私も後ろから密着してぇ、はーい、むぎゅうううう〜〜〜ッ」

エミル　「ふふっ、主様、むっちむちのフェロモンボディに、前後から挟まれちゃいましたねぇ」

セセリア　「主様は今、極上孕ませ頃ボディに包まれながらぁ、超絶美女エルフの処女穴、犯してるんですよぉ」

エミル　「甘ーい体臭とすべすべの肌に全身包まれながらぁ、入れてるだけで気持ちいいエロ穴にぃ、欲望の赴くままオチンポズボズボ出し入れしてる」

セセリア　「性欲ぜーんぶ受け止めてもらえる安心感とぉ」

エミル　「処女穴を好き放題犯しまくれる優越感」

セセリア　「同時に満たされてぇ、生まれてきてよかった〜、って感じですよねぇ。でもぉ、まだ何か足りないと思いませんかぁ」

エミル　「私たち、まだ一度も愛の言葉、口にしてませんよねぇ」

セセリア　「実はエルフィンランドでは、愛を言葉で伝えるのは、とても恥ずかしいこととされているんです」

エミル　「オマンコ見せるより、ずっとはしたないことなんですよ」

セセリア　「そんな破廉恥な言葉、私たちの口から、聞きたいですよねぇ」

エミル　「耳元でいーっぱい、言ってほしいですよねぇ」

セセリア　「というわけでぇ、主様、好きです」

エミル　「主様、好き、好き好きぃ」

セセリア　「好き、好き好き、だーい好きぃ」

エミル　「ふふっ、主様、耳まで真っ赤にしちゃって」

セセリア　「ほーら、もっと好き好き攻撃、いきますよぉ」

エミル　「好きぃ、好き好きぃ、好き好き好きぃ。好きです、大好き。大大だーい好きぃ」

セセリア　「好きぃ、好き好きぃ、好き好き好きぃ。主様、好きです。大大だーい好き」

エミル　「主様、愛してます。私を主様のお嫁さんにしてください」

セセリア　「主様、お慕いしております。私を主様のオマンコ妻にしてくださいませ」

エミル　「あんっあっあっあっ。あんっ、んあっ、んんんっ。あっあっあっ。あはんっ、はっ、あぁあンッ。あんっ、んあっ、んふっ、んんんっ。んあっ、ああっ、はぁッ、あぁあンッ」

セセリア　「あんっあっあっあっ。あんっ、んあっ、んんんっ。あっあっあっ。あはんっ、はっ、あぁあンッ。あんっ、んあっ、んふっ、んんんっ。んあっ、ああっ、はぁッ、あぁあンッ」

エミル　「あんっ、主様、急に激しいっ」

セセリア　「主様のピストン、素敵ですっ。主様専用の孕ませ穴、もっとズンズンしてくださいませっ」

エミル　「ああっ、いいです主様っ。好きぃ、大好きぃ」

セセリア　「主様のオチンポ、最高っ。私たち、もう大好きな主様のオチンポなしでは生きていけませんっ」

エミル　「主様っ、赤ちゃん、早くほしいですっ。大好きな主様の子供、産みたいのっ」

セセリア「愛しい主様の子供、何人でもお産みしますっ。濃厚精子で私たちを孕ませて、身も心も、すべて主様の物にしてくださいませっ」

エミル「あンッ、んあッ、はぁッ、あぁあンッ。あッあッあッあッ。あんッ、んはんッ、はあッ、あぁあンッ。あんッ、はあッ、ああッ、はぁあンッ」

セセリア「あンッ、んあッ、はぁッ、あぁあンッ。あッあッあッあッ。あんッ、んはんッ、はあッ、あぁあンッ。あんッ、はあッ、ああッ、はぁあンッ」

エミル「あんっ、これすごいッ。オチンポズンズン奥に当たって、頭痺れるッ」

セセリア「ああっ、すごすぎッ。プリンセスオマンコ、主様のオチンポの形に変えられちゃうッ」

エミル「ああん、負けです主様ッ。私たち、このオチンポ様に敗北しましたッ」

セセリア「もうオチンポ様なしでは生きられませんッ。これからは、このオチンポ様のために生きていきますッ」

エミル「ああッ、もうダメッ。主様ッ、きてくださいッ。最後は一緒にっ」

セセリア「ください、主様ッ。とどめの一撃で、私たちをメスに堕としてぇ。濃厚赤ちゃんミルク、私たちの子宮にびゅるってコキ捨てしてくださいませッ」

エミル　「何億もの遺伝子オタマジャクシで、私たちの孕みたがり卵子、ラブラブレイプしてぇ」

セセリア　「あんっ、ダメですッ、本当にもうダメぇッ」

エミル　「ああッ、イッちゃうッ、イクイクッ、イッくぅううううう〜〜〜ッ！」

エミル　「ああっ、出てるっ。ザーメンでたぷたぷの子宮に、こってりミルク、ダメ押し中出しされてるっ」

セセリア　「射精の勢い、すごすぎッ。ああん、こんなの、確実に妊娠してしまうっ」

エミル　「ああっ、好きぃ、主様大好きぃ。ラブラブミルク、もっとぴゅっぴゅしてぇ」

セセリア　「主様、好きです、大好きっ。こゆいの注いで、私たちをママにしてくださいませぇ」

エミル　「はあ、はあ、はあ、はあ、はあ。主様、ラブラブ中出し、ありがとうございました」

セセリア　「はあ、はあ、はあ、はあ、はあ。こんなに注いで頂いて、国民全員、さぞ喜んでいることと思います」

エミル　「……で、す、がぁ、エルフの性欲はぁ、まだまだこんな物じゃありませんよぉ」

セセリア「今日は一晩中、キンタマフル稼働させてぇ、とことん射精して頂きますからねぇ」

エミル「これからも頑張って、国民全員、孕ませてください ませ、主様。ん～っ、ちゅっ」

セセリア「これからも頑張って、国民全員、孕ませてください ませ、主様。ん～っ、ちゅっ」